

2027年3月期 第1四半期 決算ハイライト

2026年7月30日

三谷産業株式会社

証券コード8285 東証スタンダード・名証プレミア

1Q決算サマリ

前年同期比で**増収増益**。四半期連結決算開示以来、第1四半期連結累計期間として過去最高
特に売上高は6期連続、全ての段階利益は2期連続で過去最高
親会社株主に帰属する四半期純利益は、経常利益の増加に加え、投資有価証券売却益の計上を主要因に増加

単位：百万円

売上高

27,356

前年同期比 **+6.6%**
(計画進捗率24.2%)

主な増加セグメント

化学品 (+14.5%)

樹脂・エレクトロニクス (+11.1%)

営業利益

990

+147.4%
(33.0%)

主な増加セグメント

化学品 (+1,258.3%)

空調設備工事 (+66.1%)

情報システム (+13.9%)

経常利益

1,461

+87.4%
(37.5%)

親会社株主に
帰属する四半期純利益

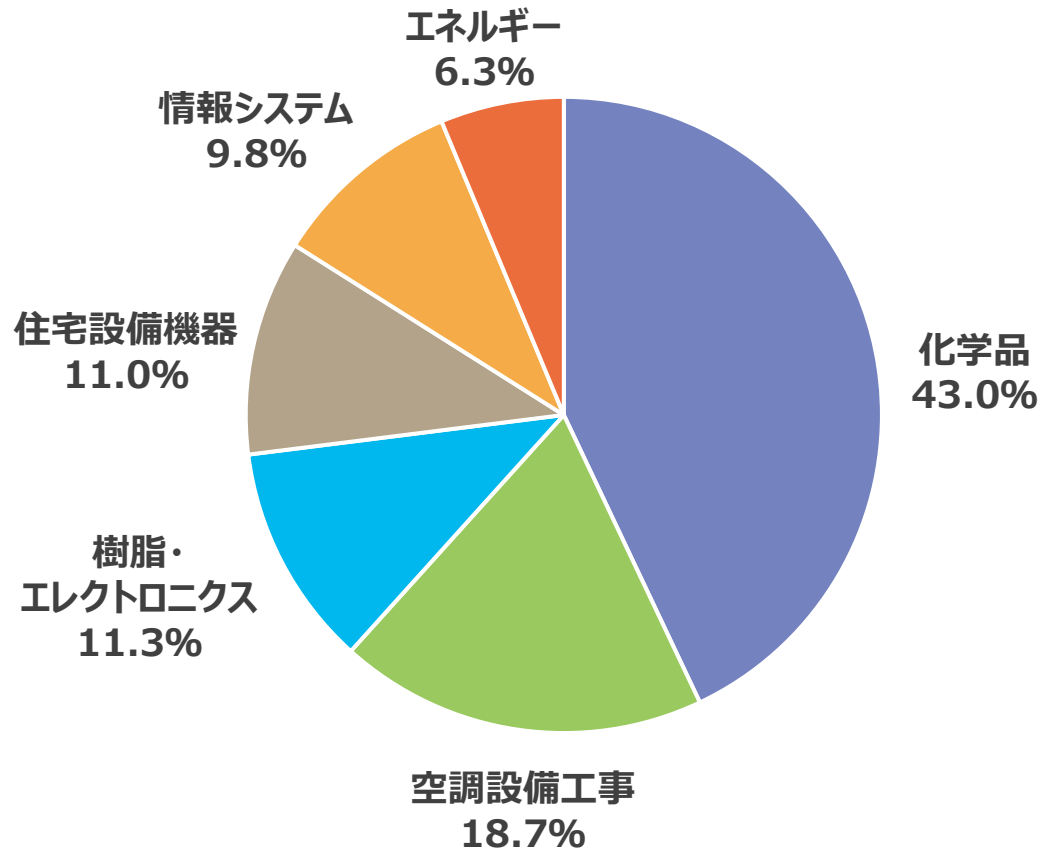
1,367

+128.2%
(52.6%)

セグメント別売上高構成比・営業利益

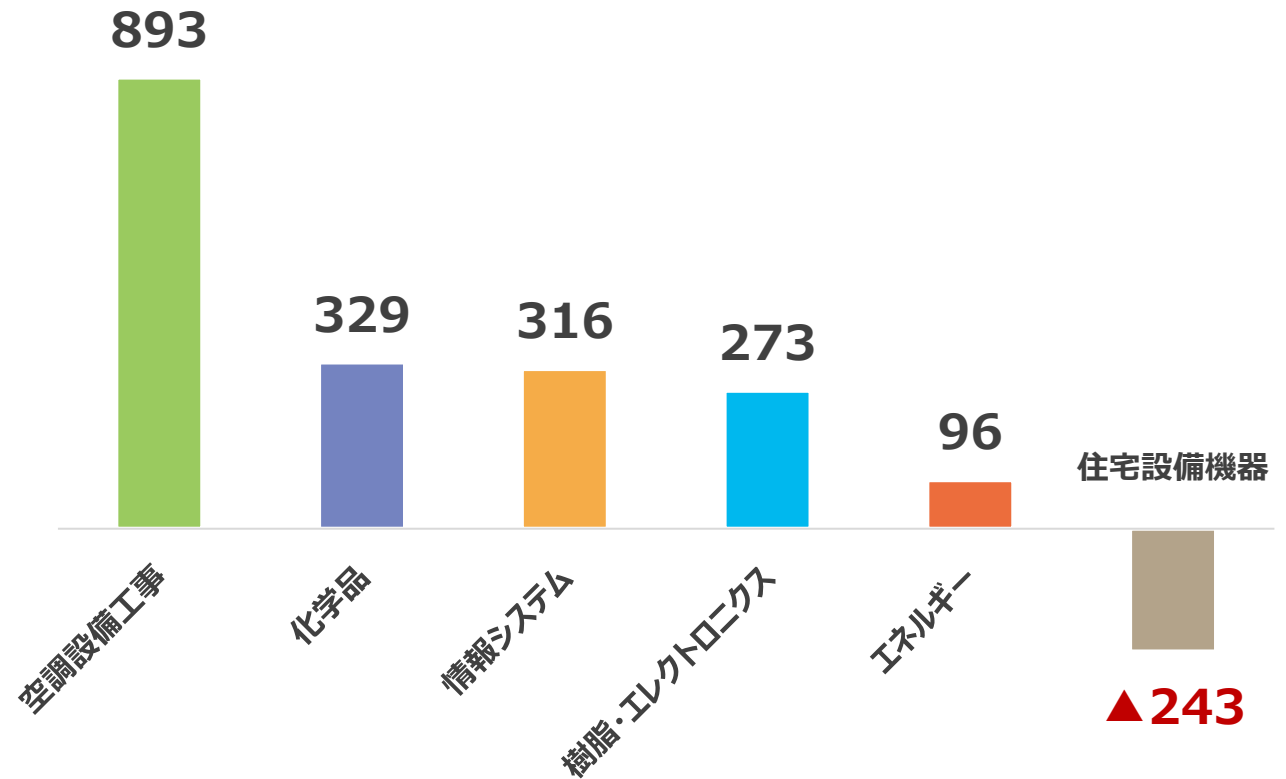
売上高は、**化学品**（43.0%）、**空調設備工事**（18.7%）で約6割を占める
 営業利益は、**空調設備工事**がけん引

売上高



営業利益

単位：百万円



空調設備工事 増収増益

売上高は、首都圏において大型のリニューアル工事が順調

営業利益は、売上高の増加に加えて、新築工事およびリニューアル工事において案件の高付加価値化に努めた

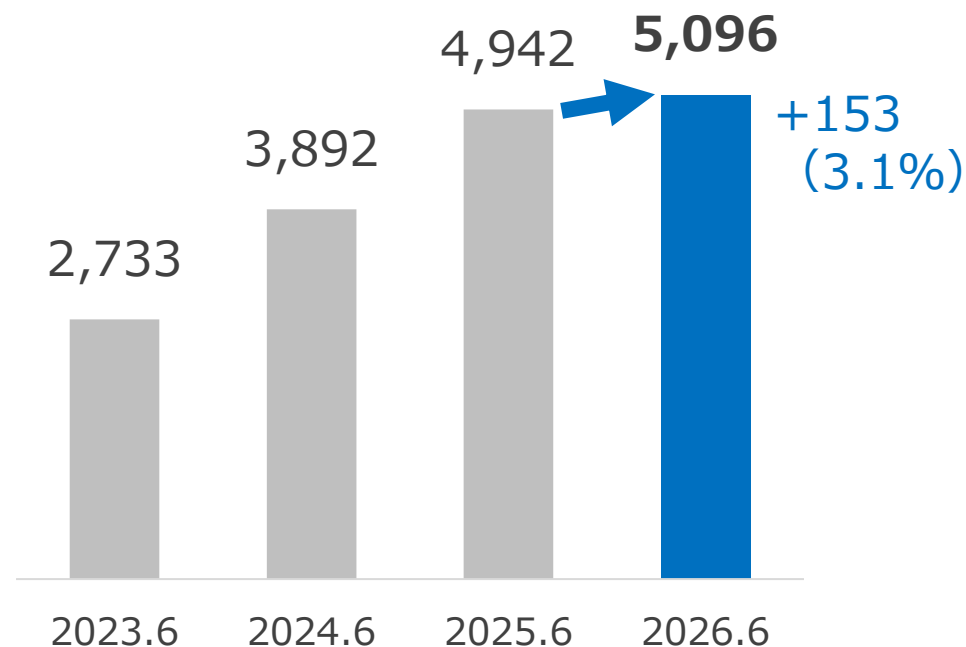
売上高は3期連続、営業利益は2期連続で過去最高を更新

単位：百万円

売上高

5,096

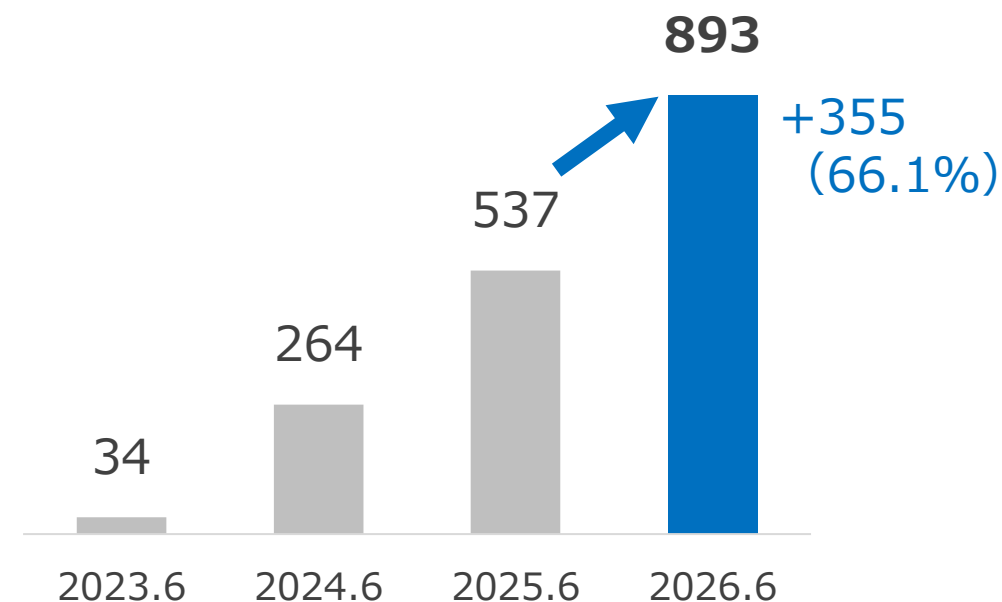
(計画進捗率23.8%)



営業利益

893

(38.8%)



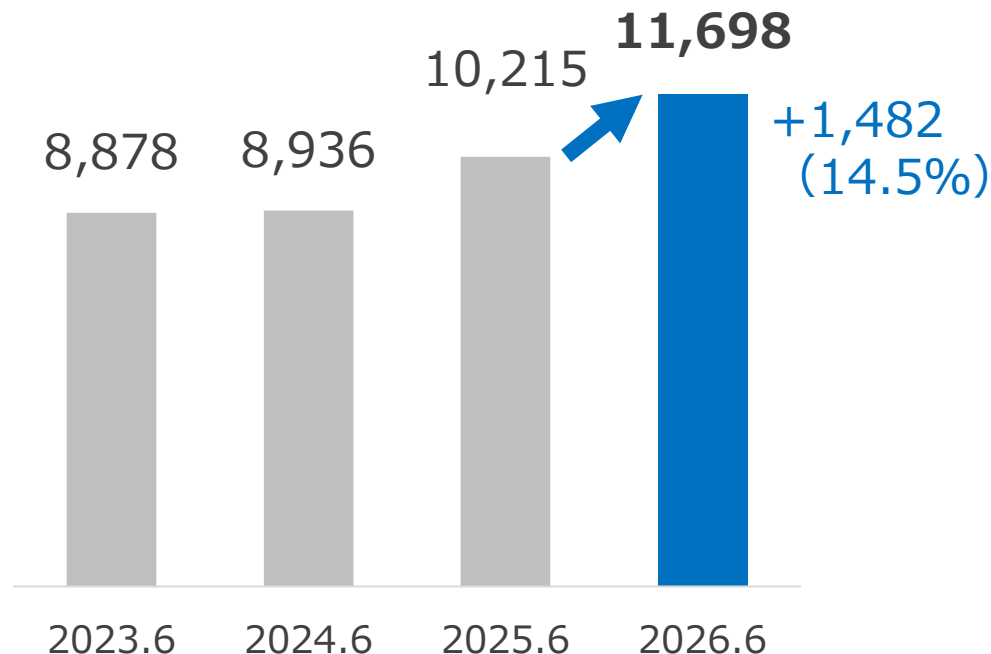
化学品 增收增益

売上高は、国内・ベトナム化成品販売、機能性素材受託製造、環境ビジネス（有価金属回収事業）が増加
営業利益は、医薬品原薬における利益の改善に加えて、国内化成品における売上高の増加
中東情勢の懸念が継続も、商社ならではの調達力を発揮でき、売上高は2期連続で過去最高

単位：百万円

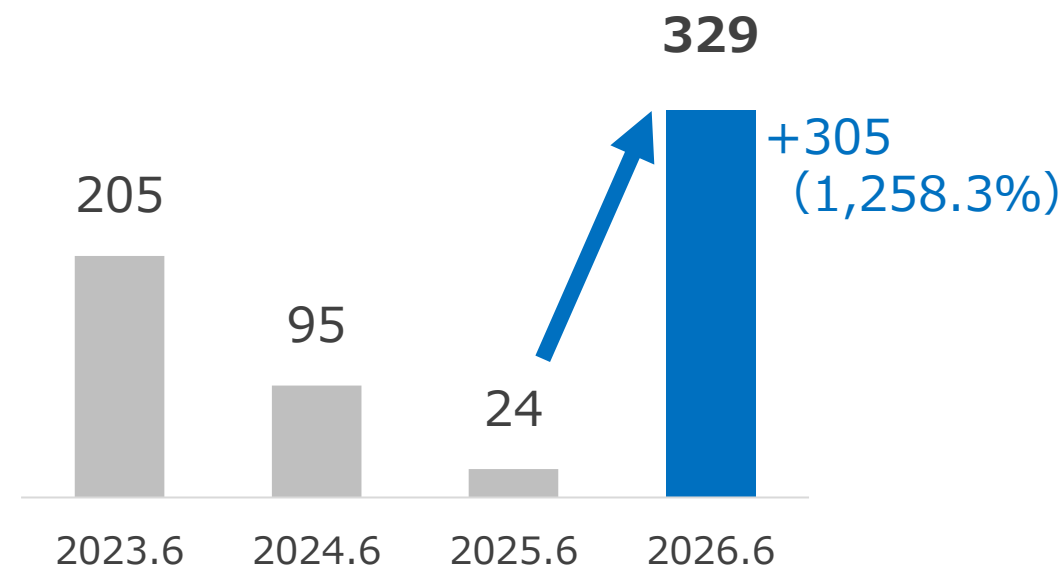
売上高

11,698
(計画進捗率26.9%)



営業利益

329
(40.2%)



情報システム 増収増益

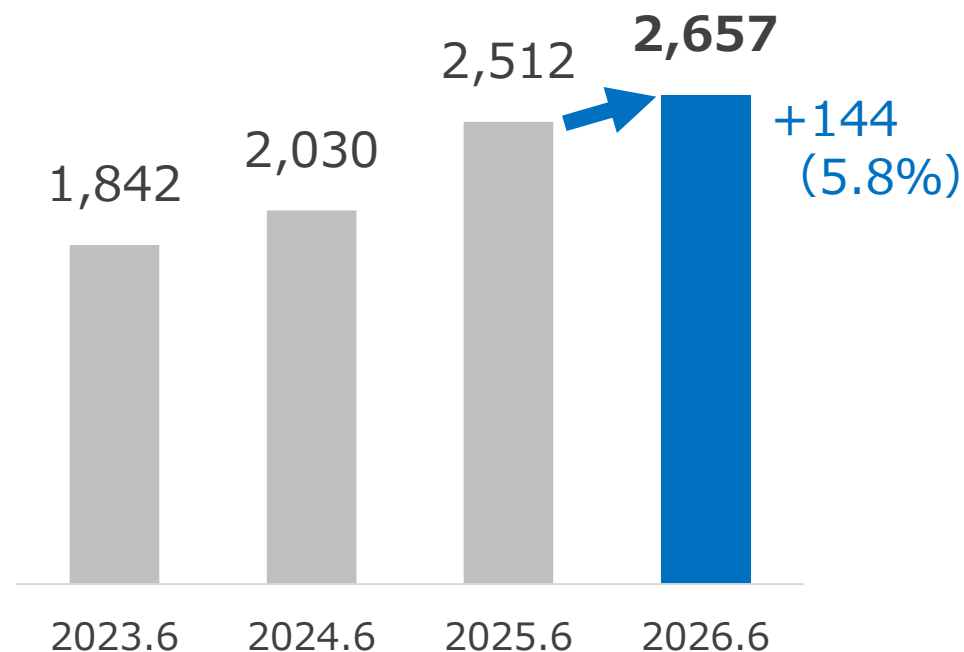
売上高は、複数の基幹システム更新案件の進捗が順調
営業利益は、売上高の増加が主要因
売上高は7期連続、営業利益は3期連続で過去最高

単位：百万円

売上高

2,657

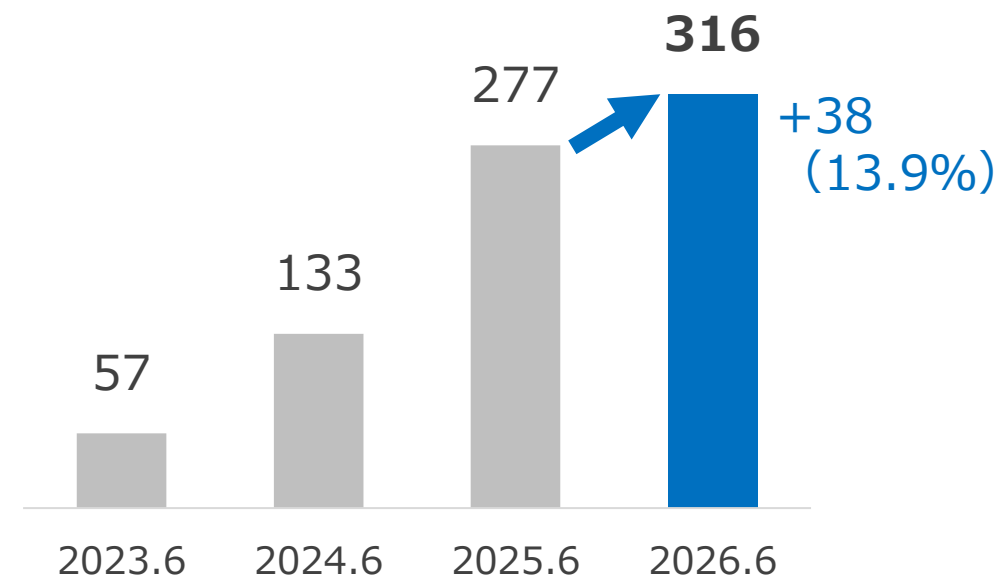
(計画進捗率22.9%)



営業利益

316

(22.6%)



樹脂・エレクトロニクス 増収減益

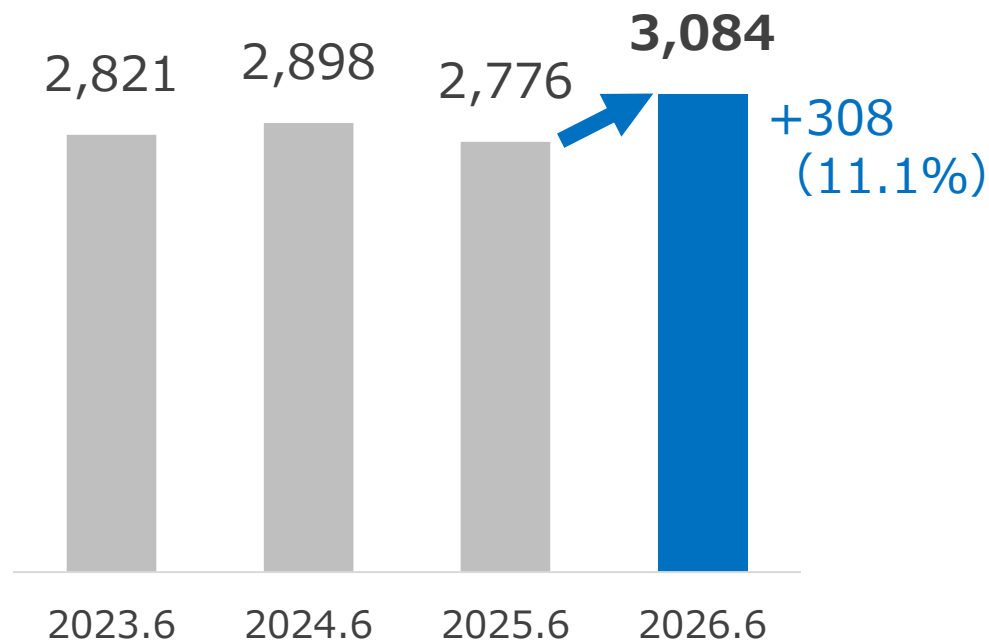
売上高は、樹脂成形品の生産が順調であったことに加えて、円安の影響で外貨建て取引における円貨換算額が増加
営業利益は、原価低減活動等が奏功したものの、中東情勢の影響により物流コストが増加

単位：百万円

売上高

3,084

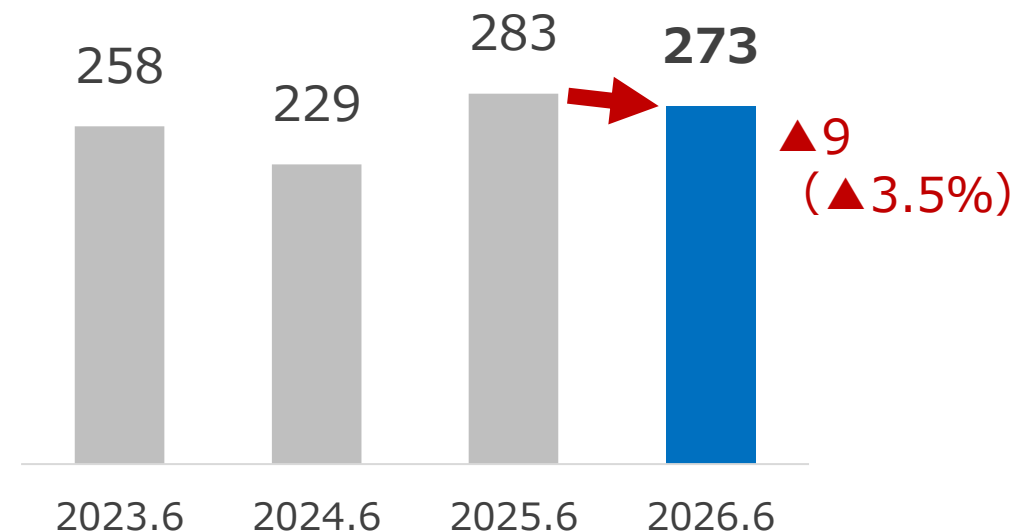
(計画進捗率24.3%)



営業利益

273

(32.6%)



エネルギー 減収増益

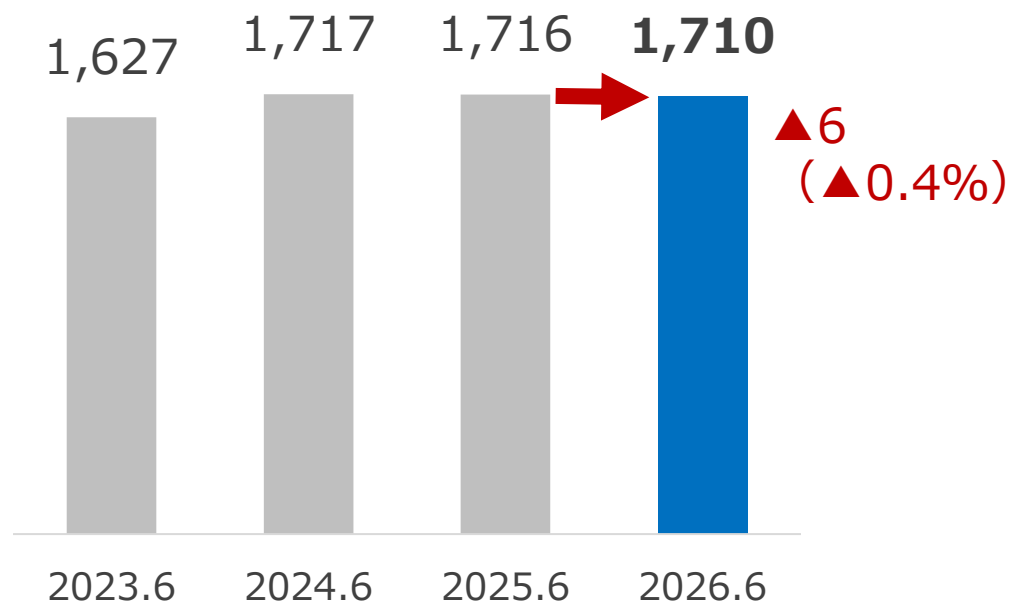
売上高は、再生可能エネルギーについて、前年同期に大型の太陽光発電設備部材の納入があったため減少
営業利益は、産業用燃料の単位利益が増加

単位：百万円

売上高

1,710

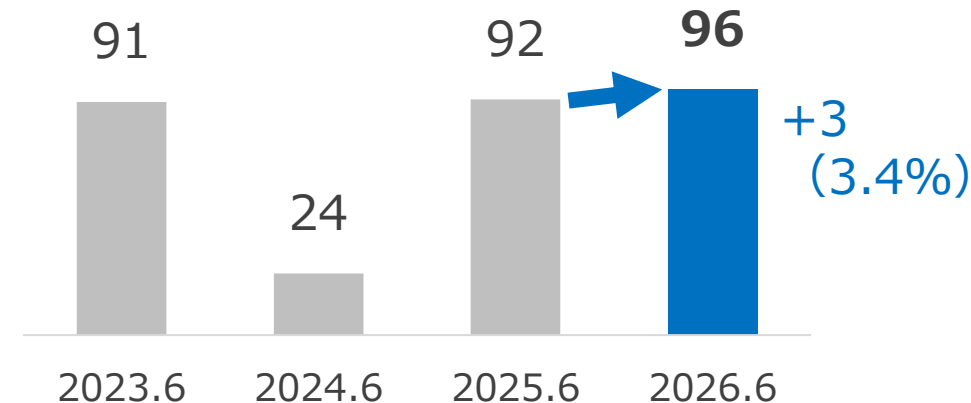
(計画進捗率21.6%)



営業利益

96

(20.2%)



住宅設備機器 減収増益

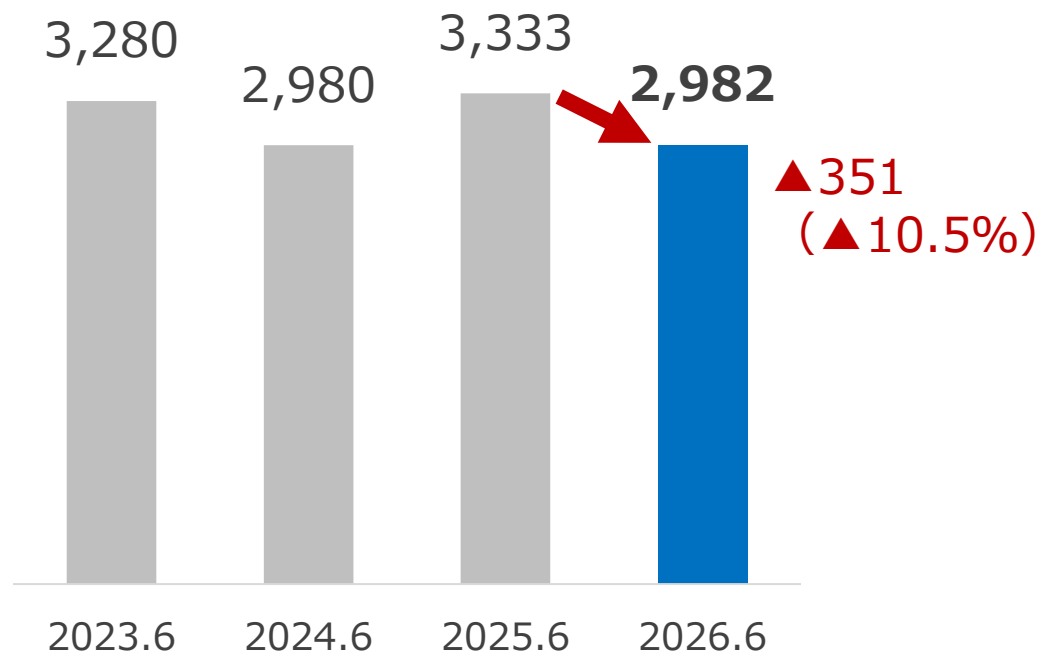
売上高は、首都圏において前年同期に大型の機器販売案件の進捗があったため減少
営業損失は、高級バスタブブランド「JAXSON」の生産工場の稼働率の改善により縮小

単位：百万円

売上高

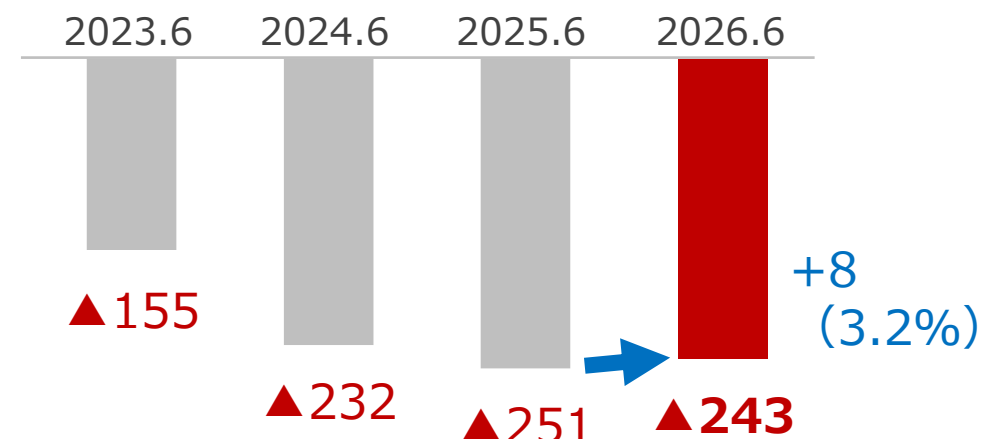
2,982

(計画進捗率19.6%)



営業利益

▲243

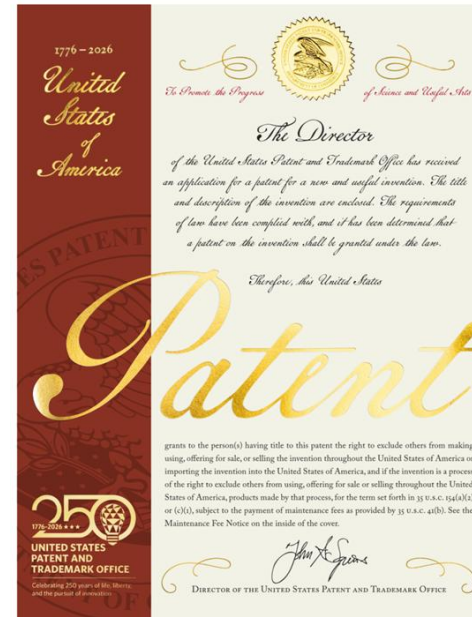


トピックス

三谷産業、多様なデータを統合・分析し、AIを活用した予測やリスク判断を可能にする技術で米国特許を取得

特許技術の概要

異種データ資源、リスク情報を正規化により整え、それらを統合・連動した分析・事象予測を実現する仕組み



- (12) **United States Patent**
Kiyoki et al.
- (54) **RISK MANAGEMENT SYSTEM AND RISK MANAGEMENT METHOD**
- (71) Applicants: MITANI SANGYO CO., LTD., Kanazawa (JP); Yasushi Kiyoki, Tsukuba (JP)
- (72) Inventors: Yasushi Kiyoki, Tsukuba (JP); Yukio Chen, Tsuchiura (JP); Koichi Mori, Kanazawa (JP); Toshiaki Fukabori, Kanazawa (JP); Tomokazu Shigeri, Kanazawa (JP); Yoshikane Oda, Kanazawa (JP)
- (73) Assignees: MITANI SANGYO CO., LTD., Kanazawa (JP); Yasushi Kiyoki, Tsukuba (JP)

本仕組みにより、リスク情報の「抜け・漏れの防止」「客観的な評価」「効率的な管理・運用」を実現します

- 昨今、企業や行政機関、研究機関は、さまざまなリスク対応が求められている。一方でリスク情報はそれぞれが異なる形式・尺度で管理されており、統合的な把握・分析が難しい課題がある
- 本特許は、異種データを統合的に分析可能なデータへ変換できる技術。データをAIや機械学習モデルに適用し、リスクの予測や意思決定支援に活用できる点が特徴
- 共同開発した清木康氏は、当社社外取締役であり、慶應義塾大学では名誉教授、武蔵野大学ではデータサイエンス学部長・教授・データサイエンス研究科長・アジアAI研究所長・通信教育部国際データサイエンス学部学部長も務めている

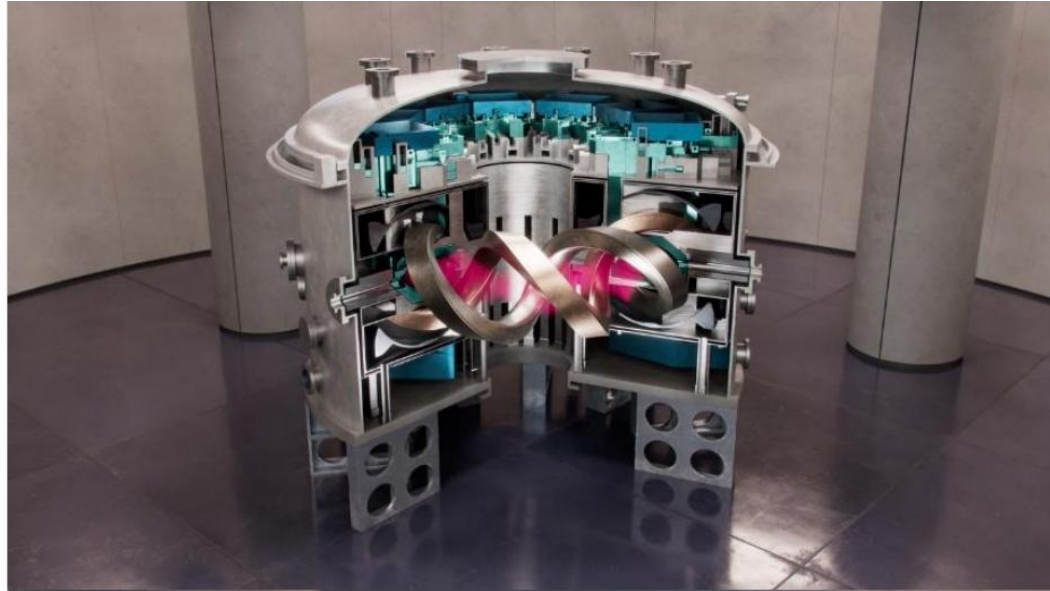


清木康氏

2026年7月28日付プレスリリース <https://www.mitani.co.jp/news/260728>

トピックス

三谷産業、世界初の商用利用可能な核融合炉の実現を目指すヘリカルフュージョンに資本参画



ヘリカルフュージョンが建設中の Helix HARUKA のイメージ（左、作業用の足場に囲まれた中心部が本体）と
同社が 2030 年代に「実用発電」を計画する発電初号機「Helix KANATA」のイメージ（右）

- 世界人口の増加に伴い、電力需要は一層拡大する見通し。エネルギー自給率が非常に低い日本は、「重点投資対象17分野」にフュージョンエネルギー（核融合）を挙げている
- ヘリカルフュージョンは、世界初のフュージョンエネルギーによる「実用発電」を目指し、ヘリカル型核融合炉の開発を進行。同社は、三谷産業主催のビジネスコンテストにてファイナリストとしてプレゼンテーション
- 三谷産業は、商社としての資材調達や幅広い顧客基盤のご提供など、中長期的な視点で支援



ヘリカルフュージョン 田口昂哉代表取締役CEO

2026年 5 月 11 日付適時開示 <https://pdf.irpocket.com/C8285/Kdx3/Fb9r/drgz.pdf>

トピックス

ビジネス機会創出・拡大のため、出展や他社との連携を強化

三谷産業 情報システムセグメント



- BIPROGYは、リース業向け基幹システムを数多く手がけた実績を活かして、リース業向け基幹パッケージシステム「Lease Vision」を中核としたシステム提案や、リース業務のデジタル化を支援する「LeaClue」も展開。三谷産業は、「POWER EGG」の提供を通じて、金融機関をはじめ多くの企業のDXを推進
- BIPROGYと三谷産業とで、リース業界向けDX推進支援で連携強化。相互のシステムを連携し、「Lease Vision」×「POWER EGG」を提供。お客さまの更なる業務効率化とDXの実現に注力

インフラ補強材・工法を開発するアウロステクノロジーズ



- CF RTP（炭素繊維強化熱可塑性樹脂）にプラズマ処理により高接着性を付与した「APLASシート」を用いた工法が、石川県が建設新技術として新たに認定
- 本工法は、工期短縮とコスト削減に寄与するとして、国土交通省NETIS(新技術情報提供システム)にも登録済
- 5月に「第2回 鉄道技術展・大阪2026」に、7月に「メンテナンス・レジリエンス 2026」に出展

再資源化炭素繊維の研究開発をすすめるミライ化成



- スポーツ用品分野は、製品製造にあたり環境影響低減に向けた対応が求められており、リサイクル素材を活用した高性能製品の開発が重要なテーマ
- ピックルボールブランド「TOCO」を展開するビーズと共同で、「ピックルボールパドル」の開発を進める
- 本開発では、東レおよび帝人の技術支援を受けることで、高品質な再資源化炭素繊維の特性を活かした製品設計から加工、商品化までを一体的に進め、パドルへの適用可能性を検証
- 7月に「スポーツ・健康産業展示会SPORTEC® 2026」に出展し、ピックルボールパドルを初公開し試打機会を提供

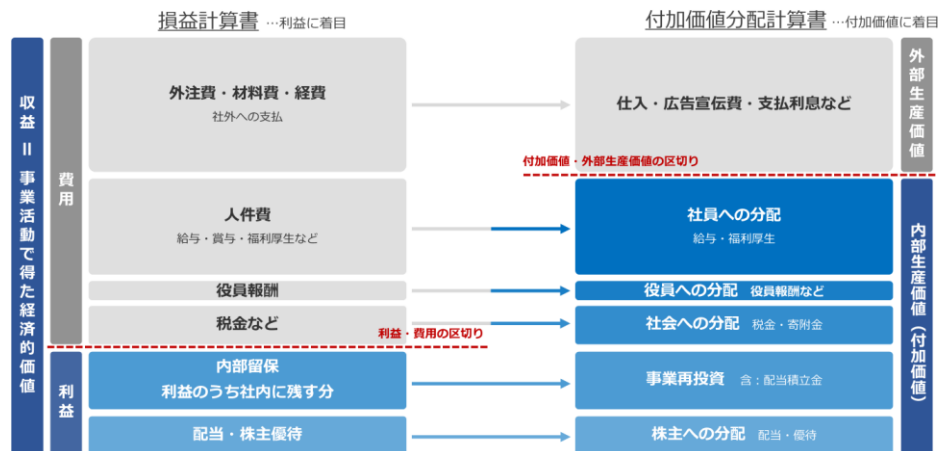
本資料に掲載のすべての商標は、各々の所有者の商標または登録商標です。その他、記載された会社名、製品名、サービス名は各社の商標または登録商標です。

トピックス

1928年の創業時から続いているステークホルダーへの「公正かつ公平な分配」を可視化するため、早稲田大学スズキ研究室協力のもと、6月に付加価値分配計算書（DS: Distribution Statement）を公開
株主さまを含め、どのステークホルダーに対しても分配額がより大きくなる経営に取り組む

損益計算書（PL）と付加価値分配計算書（DS）の比較

DSはステークホルダーへの分配状況を可視化することが可能



COPYRIGHT 2026 © MITANI SANGYO CO., LTD.

三谷産業の付加価値分配計算書

付加価値の総量の増加と、すべてのステークホルダーに分配額を増加できていることを可視化。2030年度はさらなる付加価値の増加を目指す

		(百万円)				
		2023年度	2024年度	2025年度	2030年度	2025年度から 2030年度の 単純増加率
生産	収益	98,080	105,410	120,331	143,800	19.5%
	外部支払費用	79,646	85,794	97,719	111,001	13.6%
	付加価値額（生産）	18,435	19,617	22,612	32,799	45.1%
分配	社員	12,021	12,617	13,838	20,229	46.2%
	1人あたり人件費（単体+国内子会社）（千円）	7,231	7,517	7,900	9,611	21.7%
	役員	850	924	1,013	1,232	21.6%
	社会（税金・寄附金など）	3,415	3,552	4,038	6,263	55.1%
	事業再投資（含：配当積立金）	1,532	1,848	2,849	3,479	22.1%
	株主（配当+株主優待）	617	676	875	1,597	82.5%
付加価値額（分配）		18,435	19,617	22,612	32,799	45.1%

※役員への分配はグループ全体の役員報酬総額

COPYRIGHT 2026 © MITANI SANGYO CO., LTD.

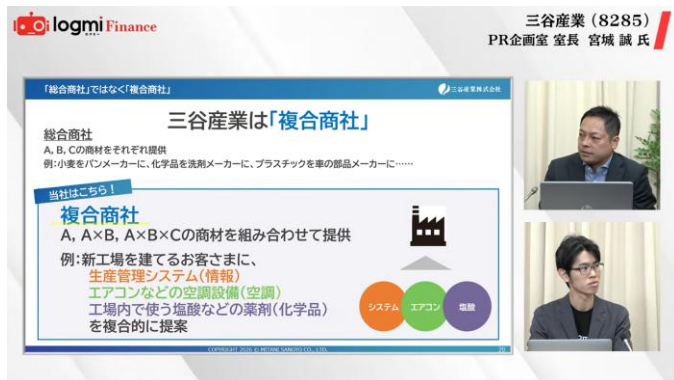
- 世界中で用いられる損益計算書（PL）は、ステークホルダーへの分配状況を数値として明示することができないという課題
- DSは、PLのように収益を「費用」と「利益」に分けず、「外部生産価値」と「内部生産価値（付加価値）」に分け、ステークホルダーへの分配を可視化
- 2025年度時点の株主さまへの分配（還元）の実績は8億75百万円。2030年度には約1.8倍となる15億97百万円とすることを目指す
- 付加価値分配経営に取り組むことを示したのは当社が3例目※、DSを公開したのは当社が2例目※ ※2026年6月17日時点
- 社長の三谷・専務取締役CFOの内田・清水社外取締役・スズキトモ教授が、付加価値分配経営をテーマに対談する動画を当社ウェブサイトに掲載

三谷産業ウェブサイト 付加価値の公正・公平な分配 <https://www.mitani.co.jp/company/ds> 早稲田大学スズキ研究室 <https://fukakachi.w.waseda.jp/>

トピックス

IR活動を強化。三谷産業グループに対する認知度向上と投資家との接点拡大を図る

5月23日（土）、ログミーファイナンスセミナーにIR担当が登場



アーカイブ動画 <https://www.youtube.com/live/y1ElGGoz7HY?t=3050&si=jpCcqnTCEdwrDliq>

アナリストレポート発行（エンヴァリス社）



アナリストレポート <https://envalith.com/ja/companies/8285/reports>

MINKABU 当社記事 & 動画公開



記事 <https://mag.minkabu.jp/companys-features/42753/>

動画 <https://www.youtube.com/watch?v=yrmu0VPewnE>

8月28日（金）から3日間、資産運用エキスポに初出展



資産運用エキスポ <https://www.am-expo.jp/osaka-1/ja-jp.html>

トピックス

イノベーションマガジン『Carbon』No.14を発行 「処方」にスポットを当て、医療・ヘルスケアの革新に挑むベンチャー企業を取り組みを紹介



イノベーションマガジン『Carbon』の最新号・バックナンバー：<https://carbon-innovation.com/>

最新情報・お問い合わせ先

最新情報は、SNSやIRメールでも配信しています
ぜひお気軽にフォローをお願いいたします！

SNS公式アカウント @MITANISANGYO



X



Facebook

三谷産業株式会社 PR企画室

TEL：03-3514-6003（IR担当）

■ 三谷産業IRサイト

<https://www.mitani.co.jp/ir>

■ お問い合わせフォーム

<https://www.mitani.co.jp/contact/form>

■ IRサイト内 投資初心者向けページ「なるほど！三谷産業」

<https://www.mitani.co.jp/ir/discover>

■ IRメール登録フォーム

https://www.mitani.co.jp/ir/ir_news/mailnews

■ アナリストレポート

<https://envalith.com/ja/companies/8285/reports>